

春の足音は行きつ戻りつ、それでも 新しい季節への確かな歩みを私たちに感じさせてくれております。

第88回卒業生の皆さん、そして保護者の皆様、光塩女子学院高等科 ご卒業おめでとうございます。心よりお慶び申し上げます。

光塩の中等科に入学なさった頃、皆さんはまだ幼さを残していましたが、素直で優しくて明るく活力に満ち太陽の光のようにきらきらとまぶしい存在でした。そして今、まぶしいばかりでなく、相手を思い、時に優しく、時に激しく輝き、様々な色合いで周りを照らすことのできる女性へと成長されました。このような皆さんの成長は、私たち教職員にとって大きな喜びであり、光塩女子学院の大きな誇りです。

皆さんが高等科に進学した2019年は、光塩祭、山荘、体育祭、親睦会、合唱コンクールと、恒例の行事を満喫できた年でした。それが2020年2月末に状況は一変、新型コロナウイルス感染症蔓延防止のために一斉休校となってしまいました。賑やかな皆さんの声が聞けなくなり、私たち教職員も不安と寂しさに覆われ、暗い雰囲気が学校の校舎全体に充満していました。そんな中、皆さんは何かできないかという熱意を持って生活委員会で話し合い、提案書を提出してくれました。皆さんの前向きな姿勢に元気をもらいました。私たちが元気をもらっただけでなく、それは2学期に入ってからSDGs週間としてさらなる実を結びました。

2020年、皆さんが高等科2年時の体育祭は中止となりました。そんな中でも皆さんはオンライン体育祭が実施できないか前向きに検討していました。残念ながら実施には至りませんでした。検討し話し合う過程で多くのことを学んだことと思います。修学旅行も実施できず。申し訳ない気持ちでいっぱい私たち教職員に修学旅行代替案の意見書をまとめて提出し、実現に至りました。初めてのコロナ禍の中での親睦会では、苦しんでいる「もう一人の友」に思いを馳せフェアトレード商品の販売を実施してくれました。12月のクリスマス会における合唱も思うように練習できない中、学年全体で見事に歌い上げ、後輩たちの模範となりました。学年有志によるオルガンやファゴットの演奏、歌の発表は、クリスマスらしい心躍る時間となりました。

高等科 2 年生の一年間、悉く行事が変則的な形となり先行き不透明な中においても、次の年の送別会で後輩たちが写真なしだと困るであろうと、予め計画的に写真を撮りためてくれていたとのこと、後で知りました。コロナ禍でやりたいことが思うようにできない状況の中でも、できることをやろうと、前向きに委員会活動、クラブ活動、行事を運営してくれました。中心となる学年が明るくて楽しむことに長けていて、エネルギーにあふれていて、自らも没頭して楽しみつつ教師をはじめ、後輩たち、周りの人に対して優しく接してくれたので、学校全体が明るく照らされていました。

高等科 3 年生になっても、様々な制約のある中で光塩祭を立派にやり遂げ、体育祭や親睦会ではこれまでの経験値を活かし、後輩たちの頼もしき相談役になりつつ置かれた場所・状況の中で色とりどり、大輪の花を咲かせてくれました。

担任の先生に、皆さんのことを尋ねてみました。多くの先生が次のように語っています。初めて接するのに信頼してくれて、アドバイスを素直に聴いて参考にしてくれた。配布物がある時、荷物を持っている時など、「先生やります」「先生代わります」と自然に声をかけてくれて、気持ちよく手伝ってくれた。学年という集団の中でそれぞれの個性をお互いに尊重していた。性格の激しい人もよし、大人しくて控えめな人もよし、歌が好きな人もよし、踊りが好きな人もよし、演奏が好きな人もよし、文学が好きな人もよし。お互いを認め合い、お互いに対して寛容で、それぞれを尊重しているので、自分の中で独創的に考えを深め個性あふれる表現をすることのできる人が多い。様々な場面での発表も上手で、恐れなくてとりあえずやってみよう！という雰囲気だった。

何かを書く際にも、物怖じせずによく書き始める、その結果、書く力がぐんぐん伸びた。長く国語科の教員として教壇に立っていた佐野摩美校長も感服していました。

これらの見解は中等科の時の担任の先生からも出ていたものです。皆さんはもともと持っているご自身の中の光と塩を大切に失うことなく、磨きをかけて6年間をここ学び舎光塩で過ごしてくださいました。

その結果、自分の個性を発揮して、自分の進みたい道に向かって一生懸命努力して、それぞれの進路を切り拓

かれ多種多様な方面に羽ばたいていきます。

さて、ここまで皆さんの光塩での歩みを振り返ってきましたが、ここで世界に目を向けてみましょう。今、ウクライナでは多くの方が家を失い、家族を失い、犠牲となっています。ウクライナの平和のためにどのように働きかけをしたらよいのでしょうか。ウクライナの平和はいつ訪れるのでしょうか。地球温暖化は確実に進み、二酸化炭素排出削減はなかなか進みません。オゾン層は破壊され、気温上昇と海水温上昇に伴い山火事、豪雨災害が起り、生態系のバランスは崩れ、農業や漁業も変化を強いられる状況です。コロナ禍はいつまで続くのでしょうか、終息の兆しはまだまだ見えてきません。あらゆることが先行き不透明です。私たち人類はいつどこに向かおうとしているのでしょうか。現状は人と人の間の平和を保つことができず、紛争が起きており、自然との平和・調和・共生を保つことができず、地球環境を著しく変貌させています。解決策は見えず、未来は決して明るくないように思われます。

しかし、皆さんは、高等科生活の約 2 年間、コロナ禍で先行き不透明な中にいました。そんな状況でも前向きに自分たちにできることを見つけて楽しみながら実行し、学年の中で時にはぶつかりながらも互いの理解を深め、それぞれの個性を尊重していく道を切り開いてきました。それは、一人一人が神様から愛されユニークな存在として創られていて、それぞれが神様から授かっている特別な光と塩をお互いに認め合う営みでした。その営みは学年内に留まらず、後輩たち、教職員との間でも実現しました。皆さんは光塩において理想的な平和の小宇宙を形成されました。そして今、この光塩から巣立っていきます。それは、光塩で培った平和を新しい場で育んでいく営みです。光塩で実現した平和な小宇宙を新しい場で実現してください。新しい場であう方々の中に神様が特別に授けたそれぞれの光と塩を見つけてください。そうすることが先ほど挙げた社会問題、地球環境問題の解決にもつながることでしょう。

最後になりましたが、保護者の皆様、本日は誠にありがとうございます。思いやりにあふれ、心優しい女性に成長なさったお嬢様方を、今日一層頼もしく、誇らしく感じていらっしやることでしょう。お嬢様方のご卒業はご家族の皆様方にとっても、まさに一つの区切り、「卒業」の時でもあると思います。お喜び申し上げます

す。

本日、お嬢様方の卒業式に居合わせ、お一人おひとりに卒業証書をお渡しできましたことは、私にとって大きな喜びです。間近にお顔を拝見し、6年間の成長の証を実感いたしました。きっと佐野摩美校長も天国から微笑み、ともに喜んでいることと思います。これから、さらに成熟なさり、世界に羽ばたかれ、ご活躍なされることを確信し、その日を楽しみにお待ちしております。

お嬢様方が在校中に、充実した学校生活を送ってくださったことは、保護者の皆様のご協力・ご支援の賜物と、心より御礼申し上げます。

お嬢様方の今後のますますのご成長とご多幸、ご活躍を心よりお祈り申し上げて、お祝いと感謝のご挨拶とさせていただきます。